城北小

自分の考えをもち、主体的に学ぶ子の育成

～学ぶ意欲を持続させるための手立ての工夫～

（３年計画の２年次）

校長　　高　谷　　信　行

１　研究主題について

(1) 教育目標具現化の立場から

本校では、教育目標に「思いやりのある子」「考えを表す子」「きたえる子」の徳・知・体の柱を掲げ、「学ぶ意欲」と「豊かな心」の育成を目指している。この目標の具現化のためには、課題意識をもって主体的に学習に取り組み、他者と関わり合いながら協働的に学習を進め、自分の考えを深めていくことが必要になると考えた。

(2) 研究の経過から

昨年度は、児童が興味をもったり、身近なこととして考えたりできる課題設定や発問、しかけなど、児童を主体的に学習へ向かわせる工夫を授業に盛り込んだことで、児童の意欲を引き出すことに一定の成果が得られた。また、課題に取り組ませる際には、既習の確認、ヒントの提示、具体物・半具体物の提示等によりしっかりと見通しをもたせることが、児童の意欲を持続させることに有効であるとわかった。しかし、「意欲」を「主体的な学び」へと導くためには、児童の感想、誤答、疑問等を生かしたり、教材や資料の提示の仕方を工夫したりして、児童にとって「必要感のある課題設定」を引き続き研究していく必要性を感じた。

そこで、今年度は「必要感」を意識して、児童を主体的に学習へ向かわせるための課題設定について研究を進めてきた。魅力的な教材、よい発問などによって、子ども達に疑問や違和感、憧れ、興味などを抱かせ、「解決したい」「明らかにしたい」と思う「必要感のある課題設定」につなげることで、子どもの主体性を引き出すよう工夫した。また、導入場面だけでなく、児童を最後まで粘り強く学びに向かわせることができるよう、引き続き、学習の進め方や学びのゴールをイメージさせる見通し、自分の学びを見つめさせる振り返りについても吟味し、城北小の目指す児童像に迫れるよう実践を重ねた。

２　研究のねらい

自分の考えをもち、主体的に学びに向かおうとする児童を育てるための指導の在り方を、授業実践を通して明らかにしていく。

３　研究仮説

課題設定や見通しのもたせ方、振り返りなどを工夫することによって、自分の考えをもち、主体的に学びに向かおうとする児童を育成することができる。

４　研究内容

○自分の考えをもち、主体的に学びに向かおうとする児童を育成するための効果的な指導の在り方

・児童を主体的に学習へ向かわせるための必要感のある課題設定の工夫

・学習の進め方や学びのゴールをイメージさせる見通し、自分の学びを見つめさせる振り返りの工夫

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・題材名・授業者・講師・授業の概要
6	9	６学年　算数：「分数×整数　分数÷分数」　　教諭　小向　美保子
		前時のやり方では解けない問題を提示することによって既習とのずれが生まれ、必要感をもたせて話合いをさせることができた。また、面積図を分割する動画を示し、見通しをもたせたことで、児童が図と式のつながりを理解することができた。
7	１４	３学年　理科：「ゴムのはたらき」　　教諭　遠藤　彩華
		動いた距離の違う２台の車の写真を提示し、既習や経験をもとにゴムの伸ばし方を予想させたことによって、意欲的に実験に取り組ませることができた。適切に実験のやり方やまとめ方を指導したことによって、よりゴムを伸ばせば、車の進む距離が長くなることを理解させることができた。

９	１	４学年　国語：「世界にほこる和紙」　　教諭　髙森　龍太郎
		筆者の伝えたいことは何かをおさえたうえで、資料と文章のつながりを考えさせることによって、児童に見通しをもたせ、意欲的に学習させることができた。そのことにより、説明文の資料の役割について理解させることができた。
９	８	５学年　社会：「水産業のさかんな地域」　　教諭　向中野　也美
		児童に馴染みのあるマグロを資料に扱い、実際のスーパーの陳列棚の写真を示したことによって、児童の疑問をもとに課題を設定することができた。児童は自分の疑問を解決するために、資料を用いて進んで調べることができた。
１０	２０	２学年　国語：「お手紙」　　教諭　福田　新子
		教材の一部を隠すしかけを作り、児童に予想させることによって、問題意識をもって学習に向かわせるとともに、課題を解決するために叙述に沿って考えさせることができた。また、考えを吹き出しに書かせることによって、自然と登場人物の気持ちを想像する必要性が生まれた。
１２	１５	１学年　国語：「じどう車くらべ」　　教諭　坂松　夢咲
		本文の叙述に合わない絵を提示し、間違い探しをしたことによって、児童に抵抗感なく意欲的に文章を読ませることができた。さらに、間違いを言語化することによって、自動車の「しごと」と「つくり」を関連付けて読み取らせることができた。

(2) 一般研修

月	日	一　般　研　修
４	１４	１人１台端末活用研修 講師：八戸市総合教育センター　石井　一二三　主任指導主事
５	１９	個別な配慮を要する児童の理解及びいじめ対応に関わる研修 担当：本校教諭　根城　恵美　　小笠原　真一
５	２６	不審者対応訓練 講師：下長交番所長　他２名
５	３１	問題解決的な学習を取り入れた授業づくりに向けて 講師：八戸市教育委員会　教育指導課　福田　秀貴　主任指導主事

６　研究の成果

(1) 児童自らが課題を見出せるように、教材へのしかけや発問の工夫を行ったことにより、自分の考えと友達の考えとのずれ、既習とのずれが生じ、それを解決するために考える必要感や問題を解きたい、実験をやってみたいという意欲をもたせることができた。また、教師が導入でこのような課題設定を意識したことによって、児童の学習への苦手意識や抵抗感を減らし、積極的に楽しく学習に向かわせることができた。さらに、児童によっては課題を解決するために粘り強く試行錯誤するなど、主体的な学びの姿も見られた。

(2) 課題を解決するための見通しをもたせたり、ワークシートや表などを工夫して予想されるつまずきに対して支援したりしたことによって、自信をもって課題に取り組ませることができた。また、課題解決に取り組む中で、他の解き方があると気づいたり、自他の立場に立って考えたりと、教科の特性に応じた見方・考え方の広がりも生まれた。

７　研究の課題

(1) 児童が課題を解決していくために、国語の学習においては叙述に即して読むなど、根拠のある考えをもたせることが必要である。そのことが、各教科の学習目標を達成し、児童に基礎的、基本的な力を身に付けさせることにつながると考えられる。

(2) 成果(2)にあるように、児童を最後まで意欲的に課題に向かわせるためには、解決への見通しをもたせることが有効であると明らかになった。今年度は、教師が積極的に支援をして見通しをもたせることが多かったが、今後は児童の思考に寄り添い、適切に支援しながら、児童が課題の解決方法を見出していけるような指導方法を研究していきたい。

（記入者　　小向　美保子）